

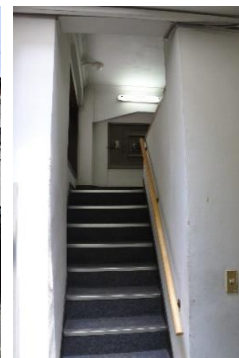
人口減少社会に応じた住民主体のまちづくり

地域資源マネジメント研究科 菊池 義浩

キーワード 主体的活動、都市計画・建築遺産、ワークショップ、コミュニティ、空間計画

研究概要

今後の国土づくりの方向性を示す国土形成計画(第二次)では、「本格的な人口減少に正面から取り組む国土計画」との方針が示され、「個性ある地方の創生」や「共助社会づくり」などを実現に向けた課題としている。しかしながら、さらなるマンパワーの低下が危惧されている現状で、各地域ではそのブレイクスルーを生み出すために苦慮しているのが実態と受け取れる。また、既存ストック活用をどう発展させていくかが、地方創生に向けた継続的な課題となっている。現在では、都市計画・建築遺産を貴重な地域資源として捉えた住民主体のまちづくり活動も展開されており、そのような取り組みに着目しながら、縮退社会における地域生活空間の計画手法について探究している。



復興建築の例(2018.6.17撮影)
第3回 豊岡まちなみゼミ

アピールポイント

本研究室では、農山漁村や地方中小都市を対象に、そこでの生活様式から空間的にみた地域特性と計画手法について探究することを大きな研究テーマとしている。これまでに、東日本大震災の被災地で活動する住民組織およびボランティアと連携し、ワークショップ開催や復興まちづくりビジョン作成のサポートに携わってきた。調査・研究から得られた成果を実践に結び付けることで、地域社会への還元を目指している。

応用分野

- ・地域資源の発掘とその利活用
- ・防災マップおよび自主防災計画の作成
- ・災害常襲地における事前復興に向けた手法の検討